

1 受審事業者

経営法人・設置主体（法人名等）：恵那市	
名称：城ヶ丘こども園	種別：保育所型認定こども園
代表者氏名：園長 西尾 浩余	定員：160名
所在地：岐阜県恵那市大井町848-1	TEL：0573-25-2539
受審回数：11回	
評価年月日（評価認定書の記載日）：令和3年3月12日	
継続評価年月日（評価認定書の記載日）：令和4年3月29日	
継続評価年月日（評価認定書の記載日）：令和5年2月1日	
継続評価年月日（評価認定書の記載日）：令和6年2月1日	

2 総 評

◇特に評価の高い点

- ・地域との関係は大変緊密で、子育てを共育的にまい進している姿が顕著である。和太鼓サークルとのコラボでは、9月のお祭りで踊りが披露され、高齢者との触れ合い、地域の小学校や施設の訪問も実施されている。また地域の和菓子店の協力により、「お茶会」が実施され参加をしている。ここでは物を大切に作る心が教えられとのことである。さらには、県が主催する木育に関する事業にも、積極的な参加を心がけている。
- ・特別支援コーディネーターが専門職種として明確に位置付けられ、相談支援の中核的な役割を果たしている。本職種は、ベテラン保育士が各種研修によりスキルアップし、その任に当たっているが、親や職員からの困りごと相談を引き受け、より豊かな保育実践を行う要となっている。
- ・指定管理の受託者として、委託者の指示を誠実に履行する姿勢により質の高い保育を果たそうとする責任感ある実践につながっている。
- ・園児と小学生とのドッジボール交流、小学校教諭との合同研修、大井小学校や第二大井小学校から校長を含む先生に来ていただいたの公開保育・意見交換を行う活動など、地元小学校との連携に工夫を凝らしている。
- ・保護者に向けた「スマイル学級」では、恵那市図書館司書から読み聞かせの大切さを保護者に伝え、絵本の貸し出し日数の増加につながっている。家庭における本を通した親子の関わり大切さを広め、親子の関係づくりに配慮した取り組みとなっている。

◇改善を求められる点

- ・当園は立地条件により水害の危険をはらんでいると考えられる。その事態は各方面で共有されており、対策に着手しようとする姿勢は十分窺える。法人理事長とも何度も相談がなされ、市に対する陳情も行われている。こうした努力がいずれ実を結ぶことを期待したいが、一方現在、「地震」「土砂災害」のマニュアルは存在するが、「水害」対応の固有のマニュアルは存在しない。喫緊のまた予防対策的な立場からの取り組みに期待したい。

3 第三者評価結果に対する事業所のコメント

コロナが5類に移行したことを受けて、これまで休止していた異年齢活動、大井地域の人や施設を使っの活動、小学校との交流、保護者の相談体制等、コロナ以前よりも一層積極的に行ってきた活動の価値を明確に示し認めていただき、ありがとうございました。全職員で共有し、今後に向けた励みとさせていただきます。

改善点として挙げていただいた「災害（水害）時対応の固有のマニュアル」について、恵那市教育委員会並びに学校法人荻須学園理事長の指導を受け、予防対策的な視点から、情報の入手、状況に合わせた避難の仕方、保護者への発信と引き渡し、小学校との連携を含め、迅速に対応できるようマニュアルを作成していきたいと思ひます。

今後ともご指導の方、よろしくお願ひいたします。

評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

Ⅰ-2 経営状況の把握

	第三者評価結果
I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	
1-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a
<p>前回評価結果：a</p> <p>地域の乳幼児に対する子育てニーズに応えるべく、12時間開園とし、0歳児から就学前の乳幼児を対象に保育・教育の実施のほか、一時保育、延長保育等にも積極的に取り組んでいる。また、園内調理で給食を提供するなど多様な子育てニーズにきめ細かく対応している。</p>	
<p>施設の取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月定期的に行われる市が主催する会議への参加によって、市の動向を知る。 ・改善に向けた要望や取組内容について企画メンバーと検討して、市の幼児教育課へ随時伝え、実現できるよう働きかける。 	
<p>継続評価結果</p> <p>園の経営に関わる問題・課題は、園長・副園長・特別支援コーディネーターにより構成される企画メンバーにより集約される。また、法人理事長とは月1回のペースで懇談の場を設け、調整が行われ、市への要望書として提出をしている。その結果本年度は、大雨警報発表時における園児の移動に関わる安全確保の視点より、昇降口付近の床、靴箱等の修繕が確定した。</p>	

Ⅰ-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

	第三者評価結果
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	
1-4-(1)-① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
<p>前回評価結果：a</p> <p>第三者評価を定期的に受審している。また、各活動が終了すると職員が反省点を記録し、職員会議で話し合っている。</p>	
<p>施設の取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援方法や、取組のねらい、活動の意味を課題をもとに職員で共有できるよう管理職が働きかける。 ・研修を活用して、保育の在り方を振り返り、次の活動に生きるよう働きかける。 	
<p>継続評価結果</p> <p>振り返りの場を確実に確保し、保育の質の向上に向けた取り組みが進められている。まず、第三者評価を継続評価として毎年受審しており、振り返りを行うとともに、市で統一的に行う保護者評価も研修の場で分析・活用し、活かす努力を続けている。園の総力を結集した確実な歩みにより、質の高い保育が期待される。</p>	

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

Ⅱ－２ 福祉人材の確保・育成

	第三者評価結果
Ⅱ－２－(３) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	
Ⅱ－２－(３)－① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
<p>前回評価結果： a</p> <p>「期待する職員像」について、①「目指す職員」として、子どものために工夫を楽しむ職員、危機管理意識の高い職員、得意（良さ）を生かし合える職員。②「目指す園」として、子どもにとって待ち遠しい園、保護者にとって通わせたい園、職員にとって勤めたい園。③「目指す職員集団」として、支え合い切磋琢磨できる職員集団（チーム城ヶ丘）と定め、年度当初の職員会議で全職員に説明し、理解を図っている。</p>	
<p>施設の取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員面談では、今年度の園の方針をもとに一人一人の保育への思いや取組、達成状況など確認する。 ・個々の職員の願いや活動の意図が全職員で共有し、より質の高いものとなるようにしていく。 	
<p>継続評価結果</p> <p>4月に職員一人ひとりが自ら使用する日誌に、目標を書き込むところから開始される。そして、10月に再チェックをし、12～1月を通して園長との面談が行われる。面談では、達成状況、保育への思いが語られるが、「子どもを主語にした」つまり子どもを主役にして保育を語ることを大切にしている。</p>	

Ⅱ－４ 地域との交流、地域貢献

	第三者評価結果
Ⅱ－４－(１) 地域との関係が適切に確保されている。	
Ⅱ－４－(１)－① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
<p>前回評価結果： a</p> <p>「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」の中で地域の実態に対応した保育事業と行事への参加を掲げ、地元自治会の団体が主催する太鼓祭では年長児クラスを中心に園児の踊りの披露や高齢者福祉施設を訪問して利用者との交流を図っている。今年度からは新たに自治会が毎月発行する「自治会報」に園の行事等の紹介記事が掲載されるなど、地域の人々に身近で親しまれる施設づくりに取り組んでいる。</p>	
<p>施設の取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流として、太鼓、お茶会、木育、野菜作りなどを通して、地域の人、もの、自然との関わりを積極的に行う。 ・年間計画に位置付け、育てたい子どもの姿を共有しながら進める。 	

継続評価結果	
<p>従来より地域との交流は盛んにおこなわれていたが、コロナ禍で一部中断していたものもある。新たに年度計画の中に位置づけ、また新規活動も加え、重要な保育の柱として豊かな展開を始めている。従来からの地域の和太鼓サークルとのコラボは、9月のお祭りで踊りが披露され、高齢者との触れ合い、地域の小学校や施設の訪問も実施されている。また地域の和菓子店の協力により、「お茶会」が実施され参加をしている。ここでは物を大切に作る心が教えられるとのことである。さらには、県が主催する木育に関する事業にも、積極的な参加を心がけている。</p>	
II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。	
II-4-(2)-① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
<p>前回評価結果：a</p> <p>運営規程では「地域の人材や社会資源の活用を図る」運営方針を明示している。地域の社会資源は、行政機関、学校、福祉・医療機関やボランティア団体等をリスト化し、職員への周知と必要に応じ保護者への情報提供を行っている。関係機関との連携は、小学校や関係機関との定期的な会議等を通し、相互に情報を交流する体制を整えている。また、家庭での虐待等が疑われる子どもへの対応は、関係機関からなるネットワーク化を図っている。</p>	
<p>施設の取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の巡回相談、ドクター相談会の利用を保護者の思いに寄り添いつつ積極的に働きかける。小との連携について、ねらいを明確にして年間計画に位置付ける。 	
継続評価結果	
<p>社会資源のリスト化や各協議会、連絡会等への参加を果たし、適切な連携が行われている。とりわけ、市の子育て支援課との情報交換は密にし、市の年8回行われる巡回相談、あるいはドクター相談会は積極的に活用をしている。また、子ども発達支援センター「にじの家」とも緊密な連絡体制を維持しており、相互訪問も実施している。</p>	
II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	
II-4-(3)-② 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a
<p>前回評価結果：b</p> <p>園は「災害（地震）時における避難場所」に指定されており、地域の緊急時に備え、園として対応すべく基本的な事項について、公益的な活動の一つに位置付け、例えば、定期的に行われる園内避難訓練等の機会を活用して職員学習会を開催して指定避難場所としての対応ポイントを園全体で確認するなどの取り組みを期待する。</p>	
<p>施設の取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門家による研修を位置付ける。 ・避難所設営となった場合の動き方について確認する。 	

継続評価結果

地域との結びつきの強い当園は、出来ることはやっつけようとする機運が強く、積極的な貢献活動を模索している。現在は、災害時の避難所設営による貢献を第一に考えており、専門家として地域の防災士などを招いての研修会を実施し、計画立案や準備を怠りなく進めている。

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

	第三者評価結果
Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	
Ⅲ-1-(4)-② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a
前回評価結果： a 恵那市立こども園利用者等の苦情等の相談解決実施要綱に則り、責任者・受付・第三者委員を設けると共に、園内に掲示し保護者に周知している。また、担任以外にも、特別支援コーディネーターや園長などが来園の保護者に進んで声をかけ、気軽に相談できる園の雰囲気醸成している。	
施設の取り組み内容 ・園児の観察等により、保護者からの相談はもとより、気になる園児の様子について積極的に保護者との懇談の場を設定し、保護者の困り感を共有したり手立てを見出したりする。	
継続評価結果 特別支援コーディネーターが専門職種として明確に位置付けられ、相談支援の中核的な役割を果たしている。市の主催する研修会や、小中学校の担当者との合同研修会にも参加をしているが、園独自の研修会も開かれ、専門性を高める努力がなされている。さらに、担任との、また小学校との情報交換を怠らず、保護者の困り感に臨んでいる。懇談の場は、利用のない日、時間帯を見定め、「一時預かりの部屋」が使われ、安心感が得られるよう努めている。	
Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。	
Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
前回評価結果： a 感染症の対応は、市共通の「感染症マニュアル」、「インフルエンザ対応マニュアル」により予防策や発生時等の安全確保に取り組んでいる。また、新型コロナウイルス対策は、「感染症対応マニュアル（新型コロナ）」により防止策を徹底すると共に保護者や関係機関との連携体制を確立するなど、子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	

<p>施設の取り組み内容</p> <p>①感染症についての正しい理解とその対応について職員研修を行う</p> <p>②熱性けいれんを含めて、救急車を呼ぶ場合の手順等についてマニュアルを見直し周知する</p> <p>③保護者との連携を確実に行う。</p>	
<p>継続評価結果</p> <p>新型コロナウイルスに特化したマニュアルは作成されていないが、職員会の中で研修を十分行い、「病気対応マニュアル」を活用し感染症対策にも遺漏のない取り組みを行ってきた。なお熱性けいれんについて、発現の経験を有しており、とりわけ研修には力を入れている。他にもSIDS等乳幼児期特有の疾病は多くあり、今後より一層の研修を重ね、緊急事態に備えていただけることを熱望する。</p>	
<p>Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。</p>	<p>b</p>
<p>前回評価結果：a</p> <p>災害時の安全確保は、非常災害対策計画のもと、「防災（台風・水害・土砂災害）」、「落雷竜巻」、「地震」の各マニュアルを作成し、災害時の対応体制を確立している。定期的に避難・消火・子どもの引き渡し訓練を実施し、子どもの命を守る取組を行っている。災害時の食糧や備品類の保管及び保護者等への緊急時の一斉配信システムを構築している。なお、災害時においても、子どもの安全確保と保育を継続する計画について整備を期待する。</p>	
<p>施設の取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震を想定した命を守る訓練では、起震車体験や防災士による講話など体験的に行う。 ・職員の研修として、避難所設営となった場合を想定した研修を実施する。 	
<p>継続評価結果</p> <p>当園は立地条件により水害の危険をはらんでいると考えられる。その事態は各方面で共有されており、対策に着手しようとする姿勢は十分窺える。法人理事長とも何度も相談がなされ、市に対する陳情も行われている。こうした努力がいずれ実を結ぶことを期待したいが、一方現在、「地震」「土砂災害」のマニュアルは存在するが、「水害」対応の固有のマニュアルは存在しない。喫緊のまた予防対策的な立場からの取り組みに期待したい。</p>	

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

	第三者評価結果
<p>Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。</p>	
<p>Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。</p>	<p>a</p>
<p>前回評価結果：a</p> <p>子ども一人ひとりの保育の実施状況は、市で統一された方法で記録している。記録内容は、職員により書き方等に差異ないように、チェック・指導する体制を整えている。職員は、記録がアセスメントや指導計画等に繋がる基本情報であることを認識し、情報の共有化を図っている。</p>	

<p>施設の取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事後カンファレンスには、必ず2名の職員が対応し、必要な情報に漏れないよう記録用紙を統一する。 ・月ごとに行う職員会で、確実に情報共有し、全職員で目指す方向を明確にする。
<p>継続評価結果</p> <p>統一した様式で記録の記載がなされており、必要な内容は職員会議において、確実に情報共有を行うよう努めている。また次年度より、タブレットを用いての記録作成を行う計画があり、記録の適正化、共有化がより一層進められることが期待できる。</p>

評価対象Ⅳ 保育内容

Ⅳ-2 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開

	第三者評価結果
<p>Ⅳ-2-(1) 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。</p>	a
<p>前回評価結果：a</p> <p>園内は、手洗い場やトイレ等、必要な改修が行われ、子どもたちが心地よく生活できるよう、明るく清潔に保たれている。コロナ禍、延長保育では子どもたちはそれぞれのクラスの部屋で保育を受け待機させるなど、感染防止対策にも率先して取り組んでいる。</p>	
<p>施設の取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが主体的に関わる環境設定ができるよう職員間で話し合う機会を持つ。 ・保育室が子どもにとって安心してつろげる場所であるかどうか環境を再構成したり工夫していきけるように保育教諭が意識をしていく。 	
<p>継続評価結果</p> <p>園内は、必要な改修が行われ、保育室や遊具の安全点検を毎月実施している。未満児部屋はけがをしないようマットを敷くなど安全に配慮している。また、雲梯下にもマットを敷き、安全への配慮がなされている。園全体で子どもたちが心地よく生活できるよう、明るく清潔に保たれているよう配慮がされている。</p>	
<p>Ⅳ-2-(2) 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている</p>	a
<p>前回評価結果：a</p> <p>園児の個別記録票を作成し、園児の課題だけではなく良い点についても丁寧に記載されている。せかす言葉や制止させる言葉を最小限にし、子どもの思いを丁寧に聞くようにしている。</p>	

<p>施設の取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内研修、以上児会・未満児会などでの職員同士の対話を通していろんな視点からの見方・考え方を知る機会をもつ。 	
<p>継続評価結果</p> <p>未満児については毎月発達の様子を確認しチェックしている。</p> <p>子どもへ豊富な言葉がけを行うように職員に周知しており、現場での適切な言葉がけについて管理者が随時に指導している。</p>	
<p>IV-2-(8) 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p>前回評価結果： a</p> <p>今年度からベテランのフリー職員を特別支援コーディネーターに位置付け、園全体の特別な支援が必要な園児の実態を把握し、その園児の困り感を担任と共に確認し、保護者との相談に生かせるようにしている。市の発達支援センター・発達相談センターとも連携し、支援を必要とする園児へのサポートが行われている。</p>	
<p>施設の取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本児のこれからの成長を見据え他機関と連携してクラスの子も同士の関わりや保護者を巻き込んだ支援や環境を整えていく。 	
<p>継続評価結果</p> <p>特別支援コーディネーターを配置し、保護者との相談に活用している。在園している脳性まひ児童や、自閉症の児童について、子ども発達センター「にじの家」、教育・発達相談センター「あおば」などの社会資源を活用できるよう配慮がなされている。</p>	
<p>IV-2-(9) それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p>前回評価結果： a</p> <p>コロナ禍での園児の体調管理のこともあり、延長保育にあっても園児はそれぞれのクラスの部屋で保育を受け、待機している。職員配置もそれに合わせ行われている。概ね、午後7時前には保護者の迎えがあるが、遅くまで迎えを待つ園児に対しては調理場でお茶を作ってもらい、それを飲ませることで対応されている。</p>	
<p>施設の取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの体調やいつもと違う様子が見られた時は、担任が遅番担当にしっかりと引継ぎ、気を付けて見守っていくことや体を休ませるような場所を確保していく。 ・未満児と以上児と遅番の部屋を分けて年齢に応じた遊びをして過ごせるようにする。 	

継続評価結果 19:00までの延長保育は親の要望もあり現在18:30頃に退園を終えている。家庭も含めた生活リズムが整うように夕方のおやつは飲み物にしている。保護者との連絡には連絡帳を活用しているが、直接伝達が必要と思われる場合には、担任が保護者を待つなど、保護者との連絡に配慮がみられる。	
IV-2-(10) 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a
<p>前回評価結果： a</p> <p>今年度から特別支援コーディネーターをフリーとしたため、保護者が小学校見学へ出向く際や園児について小学校から問合せがあった際などに丁寧に対応することができるようになってい る。小学校発行の「泰山木」で紹介されている小学校の活動等を年長組の園児に伝え、小学校生活のイメージ作りに役立てている。</p>	
<p>施設の取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児教育課が中心となり小学校教諭とこども園の5歳児担任で合同研修を行った。 ・ 小学1年生との交流や保育参観を予定している。 	
継続評価結果 ドッジボール交流による小学生と園児との交流や、小学校校長はじめ教諭が保育現場を見学しアドバイスする公開保育を実施している。3月には5歳児の得意なことなどを小学校に情報提供している。	

IV-4 食事

	第三者評価結果
IV-4-(2) 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a
<p>前回評価結果： a</p> <p>給食調理主任が、提供した給食の量や園児の食事の様子等について、常に担任から意見を聞き、献立作成に生かすようにしている。残食の量を把握し、各クラスの量を調整している。</p>	
<p>施設の取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナが5類に移行したことを受け感染対策を見直した。 ・ 行事食を提供し視覚的にも盛り付け方を工夫していく。 ・ 自分たちで育てた野菜を収穫し提供することで、季節感や食材への愛着心を育てる。 	
継続評価結果 スイカやニンジン子どもたちと育てたり、収穫したニンジンを利用したケーキづくり、近くの観光物産館「えなてらす」で地元食材のカンテンを調達してカンテンのおやつに利用したり、ポップコーンづくりを行うなど、食材やおやつ作りなどを工夫し、食事への関心を高める取り組みを行っている。調理師が実際の児童の食事の様子を見ることで反応を確認し、食事の献立に役	

立てている。

評価対象V 子育て支援

V-1 家庭との緊密な連携

	第三者評価結果
V-1-(1) 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a
前回評価結果：a 保護者と園児の帰り道になっている遊戯室前に、大型モニターを設置し、その日活動した園児の様子を写真や動画で保護者に公開している。クラスだよりは、月に2回発行し園児のこども園での様子を伝えている。	
施設の取り組み内容 ・体調面に関わらず子どもの事で心配がある場合に保護者の方が相談しやすいような雰囲気づくりと対話に努める。 ・保護者の状況を理解し、子育てを応援できるような体制がとれるよう職員間で周知する。 ・担任だけでなく、いろんな立場の職員が保護者や子どもに声がけをしていき、園全体で見守っているという安心感を持ってもらえるように努める。	
継続評価結果 月2回発行しているクラスだよりや、日々の連絡帳はもとより職員から保護者へ積極的な声掛けに努めている。専用に設けているわけではないが、空いている「一時預かりの部屋」を相談スペースに利用するなど、相談しやすい環境づくりに心がけている。	

評価対象VI 保育の質の向上

VI-1 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）

	第三者評価結果
VI-1-(1) 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a
前回評価結果：a 年2回の自己評価を行い、園長や副園長からの助言を受けながら、保育活動の改善を行うようにしている。	
施設の取り組み内容 ・構造図に基づき日々の保育の振り返るようにする。 ・園内研修や実践を通して振り返りの大切さが実感できるようにする。 ・週案や月案・個別記録等を提出する事が振り返りの機会となっている。	

継続評価結果

週案や月案・個別記録等をまとめることで保育実践を振り返り、年2回は園長・副園長の助言も受けて自己評価を行っている。クラスごとにクラス目標を定め、結果をまとめて職員間で共有するなど、実践記録を出し合い、保育の専門性の向上に努める取り組みができています。

評価対象Ⅶ 個別サービス評価基準（岐阜独自基準）

Ⅶ-1 安全管理面でのサービス

	第三者評価結果
Ⅶ-1-(1) 外部からの侵入に対する対応策がとられている。	a
前回評価結果：a 不審者が侵入した場合の園内放送での合言葉を決めており、合言葉を合図に侵入者を想定した訓練も計画的に行われている。室内には防犯用の刺股を備え、各部屋は施錠ができ、防犯スプレーを配備するなど、侵入への備えもできている。	
施設の取り組み内容 ・色々な想定を考えどうやって不審者から子どもたちを守れるか、保育士間で話し合い共有する。 ・関係機関と連携し体制を整える。 ・「今日のおやつは麩菓子です」の合言葉で子どもたちが避難を開始できるようにする。	
継続評価結果 各部屋に防犯用のさすまたを配置したり、防犯スプレーを配備するなどの対策が取られている。出入口の施錠対策もおこなっているが、現状に甘んじることなく、安全対策について向上を目指す姿勢が評価できる。	

Ⅶ-2 保護者とのコミュニケーション

	第三者評価結果
Ⅶ-2-(1) 保護者の保育参加を促すような工夫をしている。	a
前回評価結果：a 保護者と園児の帰り道になっている遊戯室前に、大型モニターを設置し、その日活動した園児の様子を写真や動画で保護者に公開している。コロナ禍にあっても保護者の参加ができるよう、運動会の日程を分散化したり、未満児の参観を屋外活動の参観としたり、又発表会をクラス別に分けて実施するなど、密にならず保護者の参加を図ることができるよう、工夫しながら行事を行っている。	

施設の取り組み内容

- ・親子遠足・クラス懇談会・プール参観などの行事の実施。
- ・懇談会后に、参加者からの感想や悩みなどを載せたクラス通信を配信し共有できるようにした。
- ・今年度もTシャツづくりを通して、子どもと保護者が一緒に作り親子の対話を持てる機会となるようにした。
- ・スマイル学級では市の図書館司書による読み聞かせの大切さを学び家庭での本を通じた関わりを広げる機会とする。それに伴い絵本の貸し出し日数を増やした。

継続評価結果

コロナ対策で交流が困難であった時期を乗り越え、親子遠足、クラス懇談会、プール参観などの行事を実施している。クラス懇談会后には参加者の感想等を載せたクラス通信を配信し、関心を深める工夫をおこなっている。園の活動に使うTシャツを保護者と子どもが一緒に作る活動など、保護者が積極的に保育に参加できる取り組みがなされている。